

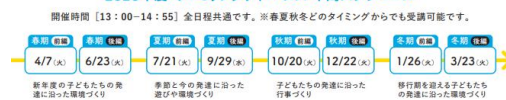
2026年度「ミマモリングアドバンス」 秋期セミナー前編



「ミマモリングアドバンス」～セミナーの流れについて～



2026年度 ミマモリングアドバンス 年間スケジュール



【今回のセミナープログラム】

1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認
「見守る保育って」何？！
2. 「ミマモリング」について
先生方が発達を理解するために必要な環境とは？！
3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する
先生が普段、実際に見ている子どもたちに必要な環境とは？！

1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認 「見守る保育って」何？！

「見守る保育って」なに？！



ゾーンを作らないといけないの？
選択制でないといけない？

1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認 「見守る保育って」何？！

「見守る保育」を理解する時に、
「保育の考え方」と「保育方法」に
分けて考えてみましょう！



「見守る保育」

保育の 考え方

- ・年齢ではなく一人ひとりの発達に合わせる
- ・遊びや環境を通じて子どもたちの発達を保証する
- ・子ども同士の関係性の中で発達を促す
- ・子どもの主体性を大切にする

保育 方法

- ・ゾーン
- ・選択制
- ・異年齢
- ・チーム保育など
- ・セミバイキング

1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認 「見守る保育って」何？！

「保育方法」は取り入れていても
「考え方」に沿っていない場合は、
「見守る保育」が、実践しづらい
ということになると思います。



大事なことは考え方を
理解することです。

こんなこと起きていませんか？

- ・ゾーンはあるけれど、**子どもたちの発達や興味に合っていない**
- ・異年齢で保育をしているけれど、**一斉に同じことをさせている**
- ・一部の時間で選択性を取り入れているけれど、**通常保育は先生が主導している**



1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認

「見守る保育って」何？！

「**保育の考え方**」をよく見てみると、
指針の内容そのものがわかんと思います。

「見守る保育」は、特別な保育方法ではなく、
子ども主体の保育を目指す考え方そのものです。



保育の
考え方

「見守る保育」

- ・年齢ではなく一人ひとりの発達に合わせる
- ・遊びや環境を通じて子どもの発達を保証する
- ・子ども同士の関係性の中で発達を促す
- ・子どもの主体性を大切にする

見守る保育 = 指針に準拠している

1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認

「見守る保育」って何をすれば「見守る保育」になるの？！
「見守る」とは、子どもの何を見守るの？！

さて、この「考え方」に沿うようにしようと思うときに
大事なポイントがあります。

「**見守る**」という言葉を分解してみましょう。



見る + 守る

「見る」とは何を見て、何を「守る」のでしょうか？



1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認

「見守る保育」って何をすれば「見守る保育」になるの？！
「見守る」とは、子どもの何を見守るの？！

見る（その子の発達状況と興味関心を理解する）

→ 「**ミマモリング**」

+

守る（発達に必要な環境を用意して主体的な育ちを守る）

上記のポイントを守っていくことで、
「見守る保育」の考え方に添いやすくなりますね。



『見守る保育』
藤森 平司著より

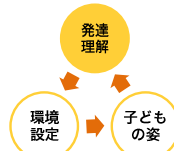
1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認

「見る」ことができないと「守る」ことができない

どんなに優れた保育環境でも、目の前の子どもの発達と興味関心に
沿ってなければ意味を成しません。

「**見る**」（発達や興味関心を理解する）というのは、

「**守る**」（発達に必要な環境を用意して主体的な育ちを守る）ためには
欠かすことの出来ないことなんですね。



発達の理解・
捉え方が大切です！



1. 「見守る保育」の考え方と保育方法の再確認

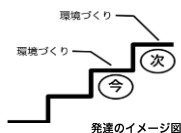
「見守る保育って」何？！

「発達」と「興味関心」を理解するとき、
「興味関心」は子どもを見ていたり、子どもに聞いてみたりすることで
理解しやすいイメージがあります。

しかし、「発達」は子どもに聞いても分かりづらいのではないですか。
5領域の中で、今の発達がどこで、次の発達は何か。

発達段階を踏まえることが**保育の専門性**でもあります。

さて、だからこそ、先生方が「発達」をしっかりと
見ることができる環境づくりが園として大切なわけです。



2. 「ミマモリング」について

先生方が発達を理解するために必要な環境とは？！

子どもたちがゾーンやコーナーを通して成長していくように
先生方が自然に学べる環境を園内に作っていく必要があります。

今までの発達記録様式は、
年齢別の様式で「手書き式」「チェック式」などがありましたが、
様々な理由から発達理解を難しくさせていました。

なぜ発達の理解が難しかったのかについて、
実際の書類を今から画面に映しますので
考えてみましょう！



先生方が発達を理解するために必要な環境とは？！
開発の経緯（発達の理解について）— 手書きの記録様式

学 童 の 家		形成月数	備考

児童の性別		

先生が気付いたことは書けますが、気付かないことは抜け落ちてしまい、書き手によって内容が左右されてしまいがち。

書いた内容がその子の発達なのか、性格なのか、その日の出来事など混ざりやすい。発達課題が書かれていないと、保育計画に活かせず、監査のための書類になってしまう。

先生方が発達を理解するために必要な環境とは？！
開発の経緯（発達の理解について）—チェック式の記録様式

4 進修		「発達の姿」		空席（ ）		（ ）	
子どもの発達		記入欄		7月	10月	備考	
観察	「うーん」って言葉を発する。	△	△				
	「はいはい」でも、自分から動きへようとする。	△	△				
	言葉は5文字以内、自分で歌をうたう。	△	△				
	物置に入っていくのを自分で誘いをかける。	△	△				
	こぼしをした自分で始末をしようとする。	△	△				
評価	言葉を発しながら自分からトイレに行きつけて排泄をする。	△	△				
	群衆の活動参加を自分でする。	△	△				
	群衆に自分の名前を呼ぶをする。	△	△				
	年間の手帳や片づけを自分でする。	△	△				

※活動の必要必須 活動でしようする・・・ 自分でできる○

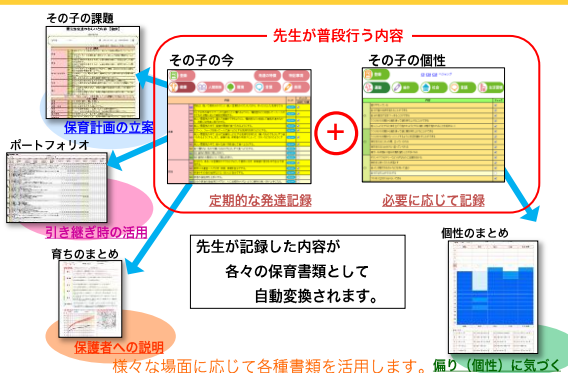
年齢の刷り込みにより、年齢でその子を見てしまい、記録がつかないと「出来ない子」となってしまうがちです。
実際は3歳の発達状況かもしれませんが、3歳の発達項目は3歳の用紙にしかありません。

「自分でできる◎」の記録がついた場合、
本来、その先の発達状況であっても、
こちらの書式では把握することが出来ません。

ミマモリングでできること

- 専門性が自然と高まる環境づくりと、
『質の高い保育』、『業務省力』の両立を行えます。

ミマモリングの仕組み—全体像



「その子の今」画面概要

[illegible]

保育所保育指針
(1歳以上3歳未満児の保育)

乳児保育
(1歳未満児の保育)

幼稚園教育要領
(3歳以上児の保育)

【健康】
【人間関係】
【環境】
【言葉】
【表現】

年齢毎に分けられている発達項目

入園から卒園までの発達一覧

3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する 先生が普段、実際に見ている子どもたちに必要な環境とは？！ チェック時の注意事項

チェックをする上では『発達過程』や『発達の連続性』をふまえて
下記に注意して下さい。

①一つのカテゴリー内では、歯抜けのチェックにならないようにします

挨拶など	M0	親しみをもちって日常の挨拶に応じる。	ヒント	チェック
	M1	あいさつや言葉など生活や遊びに必要な言葉を発する。	ヒント	チェック
	M2	日常生活に必要なあいさつをする。	ヒント	チェック
	M3	親に力を貸して日常の挨拶をする。	ヒント	チェック
	M4	日常のあいさつ、言葉、質問、応答、報告が上手になる。	ヒント	チェック

②すべての判断基準を満たした場合にチェックを付けるようにします

体を動かす遊び	M0	遊ぶ。	ヒント	チェック
	M1	走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。	ヒント	チェック
	M2	走んで戸外で遊ぶ。	ヒント	チェック
	M3	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。	ヒント	チェック

◆チェック時の注意事項

発達過程や連続性の見落としがないように
注意しながらチェックをしてください。

3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する 先生が普段、実際に見ている子どもたちに必要な環境とは？！

では次は、

見る（その子の発達状況を理解する）

+

守る（発達に必要な環境を用意して主体的な育ちを守る）

この2つのポイントについて

「ミマモリング」を実際を使って体験から学んでいきましょう！

3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する 先生が普段、実際に見ている子どもたちに必要な環境とは？！

まずは「見る」の視点で
発達チェックを見ていきましょう！



どの発達ができていて、
どの発達ができていないかを評価する

今日の体験メニュー！



3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する 「見る（その子の発達状況を理解する）」ワークショップ①の流れ

① ミマモリングにログイン ② 園児を一人選択 ③ チェック開始



④ ワークシートに記入 ⑤ チャットに入力 ⑥ ワークシートの内容を参加者と共有！

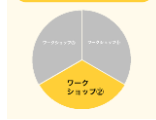


3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する 「守る（発達に必要な環境を用意して主体的な育ちを守る）」ワークショップ②

続けて「守る」の視点で
発達チェックを見ていきましょう！



今日の体験メニュー！



3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する ① 「守る」視点でチェックを振り返り！

	ヒント	チェック 記録 印刷
	ヒント	チェック
	ヒント	チェック
たり	ヒント	チェック
どし	ヒント	チェック
	ヒント	チェック
	ヒント	チェック
る。	ヒント	チェック
りし	ヒント	チェック
など	ヒント	チェック

①チェックが付いている項目に対して、
子どもたちが自ら選択し、思う存分体験できる
環境があるか、皆さんで話し合ってみてください。

例）ハイハイをはじめた子が、十分ハイハイができる
環境があるでしょうか？
→環境がなければ、どのような環境が必要でしょうか？

<これはしないですね！>

陥りやすいポイント、よくない使い方

- ・1回出来たからと言って、チェックを付けてしまう！
- ・次の課題だからといって、どんどんやらせている！



3. 陥りやすいポイント

どう活用すると大人主体になりがちか？！

実践あるある

- ・早く発達をさせてあげようと手伝ったり、誘導してしまう
- ・保育者の意図性が強すぎて子どもの本当の声や心情を子ども自身が発することが出来ないようにしてしまう
- ・子どもが決める前に大人が決めてしまう
- ・今の発達状況を十分に味合わせてあげない

助長

- 1 力を添えて、ある物事の成長や発展を助けること。
また、ある傾向をより着しくさせること。
- 2 苗を早く生長させようと思った宋の人が苗を引き抜いて枯らしてしまったという「孟子」公孫丑上のご故事から
不必要な力添えをして、かえって害すること。
(goo辞書より)

3. 陥りやすいポイント

自分に矢印を向けてみる



3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する

① 「守る」視点でチェックを振り返り！

	ヒント	チェック 記録 印刷
	ヒント	☒
	ヒント	☒
たり	ヒント	☒
どし	ヒント	☒
	ヒント	☒
る。	ヒント	☒
りし	ヒント	☒
など	ヒント	☒

①チェックが付いている項目に対して、子どもたちが自ら選択し、思う存分体験できる環境があるか、皆さんで話し合ってみてください。
例) ハイハイをはじめた子が、十分ハイハイができる環境があるでしょうか？
→環境があれば、どのような環境が必要でしょうか？

→ ①の視点の環境が十分にできている場合のみ次の視点へ

②次の発達に対してその子が主体的・自発的に発達できる環境を用意していますか？
環境がなければどんな環境が必要ですか？
(物的、人的、空間的環境)

その子が出来ないのではなく、次の発達に対して子どもが主体的に発達できる環境を用意しているでしょうか？
→環境がなければ、どのような環境が必要でしょうか？

・時間：12分間
時間が近くなったらお声掛けします。

3. 「見守る保育」の考え方で「ミマモリング」を活用する

配慮事項の記入事例

内容	チェック
体を動かす遊び MO 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ。	☐



コメント (次の計画)

【課題】体を動かす遊びMO 走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しむ

【配慮】1歳児の時にやっていたブロックの型はめボタン落としを大きくしたものに作り替え、全身を使って押す動作が出来るようにした。
子どもたちが好きな電車や動物を引っ張って遊ぶ玩具を作る。

ワークショップ②の流れ

0分 ----- 25分

- ① 「守る」視点で、チェックを振り返り！
- ② ワークシートに実践内容を記入
- ③ チャットに記入
- ④ 参加者と共有！



「保育実践シート」作成のポイント

- その子の今の発達を「存分に体験できる環境」があるかを確認しましょう。その上で、「次の発達」にあった環境が園内にあるかを確認しましょう。
- 一斉に子どもに「やらせる」のではなく、子ども自身が「選べる」工夫をしましょう。
- 子どもの興味関心に寄り添った内容を工夫しましょう。
- 環境を用意するだけでなく、発達課題によっては（乳児など）「やってあげる」「助けてあげる」「大人が姿を見せる」などの配慮事項も考えましょう。

■ 人・物・空間から考えると、環境づくりしやすいですよ！

人：子ども同士、子どもと大人などの環境づくり
物：玩具や遊具、楽器、家具など物についての環境づくり
空間：子どもの発達に合わせたコーナー・ゾーンの環境づくりについて



①「守る」視点でチェックを振り返り！

	ヒント	チェック
		記録 印刷
	ヒント	☒
たり	ヒント	☒
どし	ヒント	☒
	ヒント	☒
る。	ヒント	☒
うし	ヒント	☒
など	ヒント	☐

①チェックが付いている項目に対して、子どもたちが自ら選択し、思う存分体験できる環境があるが、皆さまで話し合ってみてください。

例）ハイハイをはじめた子が、十分ハイハイができる環境があるでしょうか？
 →環境がなければ、どのような環境が必要でしょうか？

→ ①の視点の環境が十分にできている場合のみ次の視点へ

②次の発達に対してその子が主体的・自発的に発達できる環境を用意していますか？
 環境がなければどんな環境が必要ですか？
 (物的、人的、空間的環境)

その子が出来たものではなくて、次の発達に対して子どもが主体的に発達できる環境を用意しているでしょうか？
 →環境がなければ、どのような環境が必要でしょうか？

・時間：12分間
時間が近くなったらお声掛けします。

子育て支援のサイクル

ワークショップ①
今の「発達」と次の「発達課題」の理解
発達チェック

発達理解

環境設定

子どもの姿

ワークショップ③
子どもたちの姿から学び、環境の改善に繋げる
保育実践シート

ワークショップ①と②を踏まえて挙げた
アイデア（環境設定や玩具作り、言葉掛け等）を
実行してみましょう！

保育室へ行って子どもたちの姿を見たり、
保育室の環境設定を変えたりしてみてください。

※すぐに実行が難しい場合には、実行するための準備や打ち合わせなどを行ってください。

期間：11月13日（金）18時まで

次回後編のセミナーで、
実践したことを共有しあって
学び合いましょう！



1 保育実践シート提出

2 投票

3 発表依頼連絡

4 リハーサル

5 セミナー後編 (実践発表)

「保育実践シート」の内容に加え、参加者の皆様から寄せられたご質問についてもご案内いただきます。
セミナー後編：12月22日（火）